（第3種郵便物認可）

体験語り 仲間に感謝

名古屋ダルク 20周年でフォーラム

薬物依存者の社会復帰支援に取り組むNPO法人・名古屋ダルク（名古屋市北区）が二十八日、設立二十周年を記念し同区の北文化小劇場でフォーラムを開いた。各地のダルク関係者や市民二百五十人が参加した。

施設の元利用者で現在代表の柴真也さん（三心）をはじめ関係者が次々とスピーチ。仲間と話し合う「ミーティング」を重ねて自分を取り戻した元利用者らは率直に体験を語り、仲間や家族に感謝した。

社会復帰した三十代の女性は、薬をやめた後に産んだ子に障害があり、将来を考え絶望した。「『神が与えた子。乗り越えられる』と仲間に励まされ、踏みとどまることができた」といい、「『ミーティングで解決できない問題はない』という仲間の言葉を思い出した」と振り返った。

柴さんは二十一歳の時、薬物やアルコールの依存症で母親に連れて来られたのがダルクとの出会いだった。支える側になった元利用者はほかにもいる。柴さんは「自殺未遂をしたこともあったが、今はもったいないから死ねないと思う。昔のぼくのような人がいたらダルクに来てみてください」と呼び掛けた。

名古屋ダルクは通所を無料で行っていることや寄付金減少から、資金不足に陥っており、会場ではカンパが行われた。

（小中寿美）

自然の姿 生き生き描写

名古屋で春季創画展

春季創画展（創画会、中日新聞社など主催）が、名古屋市中区栄三、松坂屋本店の松坂屋美術館で開かれている＝写真。七月五日まで。

創画会は一九四八（昭和二十三）年、東京や京都の画家らによって「創造美術」として結成された日本画家団体。上村松篁、加山又造ら著名な画家を輩出したことで知られる。

今回は三、四月に開催した東京展と京都展の作品を集めた合同展。会員の作品四十六点をはじめ、両展で入選した東海地方の画家による二十八点など、計九十二点が展示されている。

会場では、実際の土を使って枯れていくハスの色を表現した作品、山や川の自然を生き生きととらえた風景画などが目を引いている。入場料は一般七百円、高校・大学生五百円で、中学生以下は無料。

（山田昌臣）

プログラム公開や抽選会

どまつり 参加チーム向け説明会

全国から踊り手が集まる名古屋の夏の風物詩「第十一回にっぽんど真ん中祭り」の参加チームの代表らが二十八日、名古屋市昭和区の市公会堂で、演舞曲の公開抽選会などがあった。

一次審査のグループ分けのくじを引く強豪チームの代表ら＝名古屋市昭和区の市公会堂で

佐々木さん優勝

東栄で友釣り大会

チャリティー振草川

優勝した佐々木敏浩さん㊥ら上位入賞者＝東栄町内で

友釣り大会（振草川漁協実行委主催、中日新聞社共催）が二十八日、東栄町の振草川（大千瀬川）で開かれた。時間内に釣った数で競い、地元の佐々木敏浩さん（三心）＝同町中設楽＝が優勝した。

東海四県の九十人が参加。佐々木さんは来